

Newsletter

Vol.30 2016.7.1

日本養護教諭養成大学協議会

日本養護教諭養成大学協議会

ニューズレターVol. 30

会 長 荒木田美香子（国際医療福祉大学）

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ 目 次 ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

協議会副会長挨拶・	1
各種委員会報告・	2
総会・養成教育フォーラム、	3
教育セミナーのお知らせ・	3
養成大学の展望・	4

養護教諭関係団体連絡会の活動について・	5
協議会活動報告・	5
10周年記念誌について・	6
事務局からのお知らせ・	6
編集後記・	6



会長挨拶

会長

荒木田美香子

（国際医療福祉大学）

このたび、熊本県熊本地方におかれて、大地震により被災された皆様に深くお見舞い申し上げます。また、被災地の復興支援のためにご尽力されている方々に深く敬意を表します。

さて、教育界では、2015年12月に中央教育審議会より養護教諭の養成に関わる2つの重要な答申が出されました「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」がそれです。

9月の総会終了後は10周年記念誌の作成もさることながら、これらの答申に係るパブリックコメントを出すために、会員校からの意見聴取や取りまとめに力を注ぎました。9月から11月にかけて、会員校の先生方にはご協力をいただき感謝しております。具体的なパブリックコメントを出すことができ、意見が完全に取り入れられたわけではありませんが、「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」の答申では、「チームとしての学校」像のイメージ図の中に養護教諭が追加されました。また、養護教諭の現状、成果と課題がかなり詳しく書き込まれ、改善方策の中では「国は、養護教諭が専門性と保健室の機能を最大限に生かすことができるよう、大規模校を中心に、養護教諭の複数配置を進める。」との文言が記載されました。意見を取りまとめ、文部科学省にパブリックコメントを提出した成果を感じました。今後は、「これからの学校教育を担う教員の

資質能力の向上について」で示されている教員養成カリキュラムの改正が見込まれます。改正は2016年度中が山場かと考えられます。答申案へのパブリックコメントを各団体で独自に出すと共に、養護教諭に係る団体で取りまとめようという動きがあり、「養護教諭関係団体連絡会（以下、連絡会）」が2015年11月に発足いたしました。団体加入が原則となっており、本会も加入することとなりました。連絡会の中では養成カリキュラム案を検討しています。連絡会に意見を提出するためにも本協議会としての見解も出す必要がありました。そこで、2016年4月29日には本会のカリキュラム検討委員会に役員も加わって、拡大カリキュラム検討委員会を開催し、養護教諭の養成に関わる単位数を教員と同じく59単位（現行56単位）とするという案を原案として連絡会に提出しております。さらに「教員養成指標」の作成や教育委員会と大学が協力して教員の能力の向上をめざすということが求められており、養護教諭養成大学としては、これも大きな課題となると思われます。

加えて、連絡会からは「保健師免許を基礎資格とした養護教諭二種免許」についての本会の意見も求められております。学部教育と大学院教育の中で養護教諭の能力向上を担う本協議会として、会員校の意見を反映しつつ、これからの養護教諭を育成するという上で、良識ある判断をしていかなければならない重要な時期であると感じております。連絡会との協働活動などについては総会で説明する時間をとらせていただく予定です。このように活発な活動が求められる時期ではありますが、それを支える本会の資金が底をついており、たいへん恐縮ではございますが、総会において1校2万円の会費についてご検討をいただかなければならなくなりました。

会員校の皆様からのご意見をいただけるような工夫をしていきたいと考えております。能力のある養護教諭の養成に向けて、会員校からのご協力をいただきますようお願いいたします。

各種委員会報告

「養成制度検討委員会」 「カリキュラム検討委員会」活動報告

委員長 大川尚子（関西福祉科学大学）
三村由香里（岡山大学）

「養成制度検討委員会」及び「カリキュラム検討委員会」は、相互に関連する部分が多いことから、昨年度より合同で活動しております。現在、協議会が参加している養護教諭関係団体連絡会（以下連絡会）では、各団体で合意をしながら、文部科学省に養護教諭養成カリキュラム案を提案しようとしており、それに合わせて、ワーキンググループ（以下WG）でカリキュラム案を検討しています。協議会では以前より、養成制度・カリキュラム検討委員会を中心にカリキュラム案を検討していますが、WGへの協議会としての提案の方針を確認するため、4月29日（金）に拡大カリキュラム委員会（カリキュラム検討・養成制度検討委員会及び役員会メンバー）を開催しました。その結果、1)「これからの養護教諭養成」を見据えて、教員と同等の教員養成カリキュラムとすることを基本として提案をする。具体的には、養護教諭1種免許に要する単位数を59単位とすること、2) これまでの中教審答申（今後の教員養成・免許制度の在り方について：2006年、教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策：2012年）に一貫して提示されている、大学の独自性、地域の特徴、地域の教育委員会との連携による教育の展開ができるものとする、3) 養成カリキュラムに提示される内容は、養護教諭の養成教育のコアとなるものであり、養護教諭の養成の質を担保するための各大学で独自の努力が行われることを前提としたものであること、を確認し協議会としての養護教諭養成カリキュラム案を検討し、5月8日（日）の連絡会のWGで提案しました。

5月22日（日）には、今年度の第1回委員会を開催し、WGで検討された科目名や科目内容をさらに精選しました。その後、一昨年の総会で提案した科目の名称変更・新設について、その根拠や具体的な教育内容について、各科目について小グループで検討すると同時に、どのような養護教諭を育てたいかを明確にし、本協議会の会員大学の様々な養成に耐えられるような内容や工夫点を示すことができるように検討しました。

「FD検討委員会」活動報告

委員長 中下富子（埼玉大学）
遠藤伸子（女子栄養大学）

2012年8月中央教育審議答申では、「教員と学生が意思疎通を図りつつ、学生が主体的に問題を発見し解を見出していくアクティブ・ラーニングへの転換が必要である。」と指摘しています。このように、高等教育の課題において、学生数等の量から教育の質の転換へと、早急かつ効果的な取り組みが求められています。

そこで、FD検討委員会の活動は、2015～2017年の3年間、養護教諭養成教育におけるアクティブ・ラーニングの充実を図ることをテーマといたしました。今期の実施目標は、1年目（2015年度）：アクティブ・ラーニングについての理解の深化、2・3年目

（2016・2017年度）：アクティブ・ラーニングに基づいた授業の計画、実施、評価の検討を行うこととしました。実施目標に向けて、昨年度は、FD検討委員会を3回、開催して参りました。

第1回FD検討委員会（2015年8月27日）：今期のFD検討委員会活動について、アクティブ・ラーニングに関する本委員会の目的と実施目標について検討、確認をしました。また、養成教育セミナー開催における具体的な運営方法や、FD検討委員の役割分担について検討、確認を行いました。

養成教育セミナーでは、国立大学法人 長崎大学教授 山地弘起氏によります講演会「学生に深い学びを引き起こすアクティブ・ラーニングとは」を実施し、その後、分科会・全体会では「アクティブ・ラーニングの現状と課題」について討論を行いました。

第2回FD検討委員会（2015年10月2日）：養成教育セミナーについて、アンケート集計結果に基づき評価し、来年度のFD検討委員会としての具体的な活動方針及び活動内容について検討、確認を行いました。

第3回FD検討委員会（2016年3月29日）：2016年度養成教育セミナーでのアクティブ・ラーニングによる授業実践におけるワークショップの運営、FD検討委員の役割分担等、また2017年度のFD検討委員会の具体的な活動方針及び活動内容について検討、確認を行ってきました。

今年度もFD検討委員会の企画で、「養成教育セミナー」を実施させていただきます。実り多きセミナーとなりますよう、会員の皆様のご参加をお待ち申し上げます。



日本養護教諭養成大学協議会 2015年度総会および養成教育 フォーラムのご案内

2016年度総会及び養成教育フォーラム

- ◆日 時：2016年9月2日（金）
10：00～16：00（受付9：30～）
- ◆場 所：きゅりあん
（東京都品川区東大井5-18-1）
- ◆内 容：総会
各委員会報告
熊本地震での子どもの健康と学校支援の
現状（仮）
養成教育フォーラム
演題『中央教育審議会答申と今後の教員
養成施策について』
文部科学省 初等中等教育局
教職員課 教員免許企画室長 山下 恭徳 様

今年度は上記の日程で、前年度と同様の会場
「きゅりあん」で開催いたします。
9月2日（金）の総会は原則としてすべての会員大学
のご参加をお願いいたします。
総会は、会員大学の所属する方はどなたでも参加
できますが、議決権は、1会員校あたり1票です。

2016年度 養成教育セミナー

- ◆日 時：2016年9月1日（木）
13：00～16：30（受付12：30～）
- ◆場 所：きゅりあん
（東京都品川区東大井5-18-1）
- ◆内 容：ワークショップ
「アクティブラーニングによる授業実践」
ワークショップ形式で模擬授業を行います。
分科会は次の3分科会です。
 - ・養護概説
 - ・健康相談活動の理論と方法
 - ・看護学

分科会後、全体会を開催します。各分科会の報告を
するとともに、川越明日香氏（国立大学法人 長崎大学）
から助言をいただきます。

- ◆参加申込：
 - ・第2希望まで申込みを受けます。
 - ・7月29日（金）までにお申込ください。
 - ・できるだけWeb申込みにご協力ください。
 - ・参加分科会は、9/1の受付でお知らせします。
 - ◆セミナー参加費（資料代含む）：
 - 受付で1,000円を集金いたします。
- 詳細は「日本養護教諭養成大学協議会2016年度総会等
参加申込用紙」をご覧ください。

養成教育セミナーの ご案内

FD検討委員会は、2015～2017年度の三年間、養護
教諭養成教育におけるアクティブ・ラーニングの充
実をテーマに取り組んでおります。

昨年度（2015年度）は、アクティブ・ラーニング
への理解の深化を図るために、国立大学法人 長崎
大学山地弘起 教授からのご講演と討論会を「養成
教育セミナー」として開催しました。

二年目の今年度（2016年度）は、教育職員免許法
「養護に関する科目」の中から「養護概説」、「健
康相談活動の理論と方法」、「看護学」といった3
つの科目について、アクティブ・ラーニングによる
授業実践をワークショップ形式で行います。

今年度もFD検討委員会の企画を「養成教育セミ
ナー」として実施させていただきますので、ご案内
申し上げます。

会員の皆様には、ご参加くださいますよう、どう
ぞ宜しくお願いいたします。

会員大学に所属する希望者はどなたでも
参加できます。総会・養成教育フォーラム
とあわせて参加申込用紙
にてお申込みください。



情報交換会

日時 9月1日（木）17:00～19:00

会場 パパミラノ大井町

050-5787-3463

東京都品川区大井1-2-1 アトレ大井町
6F（JR京浜東北線大井町駅徒歩1分）

会費 5000円（貸切）



養成教育セミナー後は情報交
換会を計画しております。
会場は、昨年度と同じ場所にな
ります。
大学間の交流を図ることがで
きる本情報交換会にもぜひ
ご参加ください！

養成大学の展望

大学紹介 北から南

心理学の知識と対人スキルを強みにできる 養護教諭の養成

東京家政大学人文学部心理カウンセリング学科
平川俊功・中込由美

東京家政大学では、2009年度から人文学部心理カウンセリング学科で養護教諭1種免許が取得できるようになり、この春には4期生が卒業しました。本学科は、医療・教育・産業等の社会のあらゆる領域において、心理学の知識と対人スキルを備えた実践力のある人材を育成することを目指しています。卒後の進路は多様で養護教諭を目指している学生ばかりではありませんが、養護教諭養成においては、心理学やカウンセリングの種々の専門的な学びを職務にいかし、強みにしていくことができるように、心理学、カウンセリング学、養護教諭の専門領域を系統的に修得できるような講義及び演習科目、グループワークを伴う実験・実習科目の充実を図るカリキュラムを編成しています。

本学科の養護に関する科目の授業の特徴としては、特に、看護学を担当する教員と養護及び教職を担当する教員のコラボレーションによる授業の展開があげられます。例えば、現行カリキュラムの「救急処置」は実習扱いで通年科目として、傷病の処置だけでなく、学校ではどのような状況でどのような傷病が発生するのか、事故防止及び校内救急連絡体制、事後措置、校内研修に関すること等の救急処置活動について講義や実技及び演習、学生の課題研究やグループワークを通して学びとることができるようにし、さらに看護学(看護概論・看護技術・看護臨床実習)や救急処置実習の学びの積みあがを養護実習につなぐことができるようにしています。大学で学ぶ一つの知識や技術を学校現場で具体的にどう活用していくのかをイメージし、活動に移すことができるように担当教員間で授業の工夫を図っています。今後は、学部生の学びの充実だけでなく卒業生の学びの場についても検討し、学校教育現場と大学の往還による学びの方途を模索し、学び続ける養護教諭の養成・育成に尽力していきたいと考えています。

養護教諭の魅力を感じられる養成教育をめざして

聖隷クリストファー大学 看護学部 看護学科
高橋佐和子

本学は、キリスト教に基づく「生命の尊厳と隣人愛」を建学の精神として掲げ、人の不安や苦痛、悲しみを理解し、共に生きることの喜びを見出して地域・社会に貢献できる保健医療福祉の専門職の育成を目指しており、看護師養成では60余年の歴史があります。浜松市にある大学キャンパスは、聖隷グループが運営する中・高等学校やこども園、病院、養護老人ホーム、障害者施設など多様な施設に囲まれ、実習だけでなく、ボランティア活動などの体験学習をする環境に恵まれています。

養護教諭養成課程は2010年に看護学部開設され7年目になります。1学年約150名の1割程度が卒業まで本課程を選択履修し、このうち6～7名程度が採用試験に挑みます。この3年間で6名が養護教諭として正規採用されました。

看護学部のカリキュラムは過密なため、筆記試験・面接・実技などの採用試験対策講座や地域の学校でのボランティア活動は昼休みまでも使い、授業の合間を縫うようにして行っています。こうした困難な道にもかかわらず、学生は明るく、前向きで、共に学ぶ仲間としての絆が強く、卒業生も含めた交流会が定期的に行われています。そこでは、試験対策、養護教諭の仕事の魅力、保健室経営の夢などが語り合われ、養護教諭になることへのモチベーションを高め合う場になっています。また、健康診断実習や採用試験の面接練習等で併設校との関わりがあり、先生方からご指導いただくなど身近に学校現場や教職の実際を知る機会があります。

先日、養護教諭として働いている卒業生から「人が生まれる前から亡くなるまで、その家族関係も含めて学修してきたので、ここまで成長してきた過程の推測や、今後どうなるかという予測を基に子どもを見ることができる」「命の大切さ、子どものうちの教育が生涯の健康にいかにか大切かを実感できたことが今の仕事につながっている」など本学での学びを実践している様子を聞きました。少しずつですが、本学の養護教諭課程の良い文化が築かれつつあることを実感しています。



養護教諭関係団体連絡会の活動について

会長 荒木田美香子(国際医療福祉大学)

日本養護教諭養成大学協議会（以下、本協議会）は平成27年11月より養護教諭関係団体連絡会（以下、連絡会）の加入団体として、活動を進めております。下記に、その経過を記載し、会員校に報告させていただきます。

・平成27年11月6日に日本養護教諭教育学会の後藤ひとみ理事長より、「養護教諭関係団体連絡会」の立ち上げと本会の参加を求める連絡が入りました。同様の会は、「学校保健法が学校保健安全法に改正される前後に開催されていたが、その後は特に継続されていなかった、しかし、中央教育審議会が教員の養成に関するいくつかの答申が作成される予定であること、それに引き続き教育職員免許法の改正が見込まれることなどが予測される、文部科学省などに要求していく際に養護教諭関係が一本化された団体が必要であること」などが設立の理由として、説明されました。

・平成27年11月8日に顔合わせ会があり、本協議会より荒木田と三村副会長が出席いたしました。設立趣意書をもとに本協議会の役員会で検討をし、本協議会の加入を決定いたしました。また、中央教育審議会答申案へのパブリックコメントはそれぞれの母団体からと連絡会からのものを出すことになり、提出しました。

・平成27年11月19日に後藤氏が調整をしてくださり、馳文部科学大臣に面談をし、養護教諭養成の充実について要望書を提出しました。

・平成27年11月22日に第2回の連絡会が開催され、パブリックコメントなどについて話し合いました。

・平成27年11月30日に文部科学省教職員課と連絡会の勉強会を行いました。本協議会より三村副会長、津島理事、河田理事が出席いたしました。

平成27年12月23日 連絡会を開催し、会則およびワーキングの設置、役割を決定しました。連絡会の会長として後藤氏、副会長として荒木田、会計として三村氏が担当することとなりました。ワーキングにはカリキュラム検討委員会より、大川理事、下村委員がメンバーとなっています。

・平成28年2月7日、2月23日、2月28日にワーキングおよび代表者会議が開催されました。

・平成28年3月28日に連絡会を構成する各団体の代表者が文部科学省健康教育・食育課を訪問し懇談を行いました。

・平成28年4月10日、5月8日、5月12日、5月29日にワー

キングおよび代表者会議が開催されました。

・平成28年5月30日に文部科学省健康教育・食育課のヒヤリング（これからの養護教諭の在り方について）に後藤会長が参加しました。また、翌5月31日には、連絡会の現職代表として、全国養護教諭連絡協議会の木嶋会長が参加しました。

現在は、教育職員免許法に関わる養護教諭の養成カリキュラム案について各団体の意見も反映させつつ、連絡会としての案および養護教諭の養成カリキュラムの改正について再度の文部科学省への要望書の提出を検討しているところです。

また、平成28年5月末における、連絡会の構成団体は下記のとおりです。

日本養護教諭教育学会・全国養護教諭連絡協議会・日本養護教諭養成大学協議会・日本教育大学協会全国養護部門・全国私立大学・短期大学(部)養護教諭養成課程研究会・日本健康相談活動学会・日本看護系大学協議会養護教諭養成教育研検討委員会

協議会活動報告

日時：3月13日（日）13：20～16：45

場所：高知県立大学サテライトキャンパス

出席者：荒木田、池添、遠藤、大川、河田、櫻田、宍戸、中下、三村（50音順敬称略）

主な審議事項：①会計報告および次年度予算案の見直しについて担当理事より報告があり、種々節約可能な経費についての検討を行った上で、協議会発展のための新規事業の取組みなどにも会費の値上げが必要であり、会員校へのご理解や承認を得るために必要な手続きなどについて審議が行われました。

②ホームページの管理及び保守について、セキュリティ等の確保のため、次年度より外部委託することが検討されました。

③10周年記念誌の構成や内容について担当理事より提案があり、審議の結果、承認されました。7月の機関誌発行または総会にて配布することが検討されました。

④2016年度総会・養成教育フォーラムについての内容と時程について提案があり承認されました。講演は文部科学省教職員課長に依頼することが決定しました。

⑤情報交換会については懇親会を兼ね、昨年同様、パパミラノ（イタリア料理店）で行うことが承認されました。主な報告事項：免許法改正の動きに対応するため結成された養護教諭関係団体連絡会の活動経過についての報告及び意見聴取が行われました。

（庶務：遠藤伸子）

10周年記念誌について

本協議会は2005年11月26日（土）設立総会を開催しました。開設時は71校の会員校でしたが、それから10年後の2015年度は124校となりました。協議会設立にご尽力くださいました先生方には、心より感謝を申し上げます。10年間の活動の歩みは記念誌にまとめて本会のこれからの発展に役立てたいと考えています。今年度の総会時に配布できるように、編集作業を行っています。

櫻田淳（埼玉県立大学）

事務局からのお知らせ

年度当初の会員校登録及び基本調査に際しましては、ご協力ありがとうございました。

登録時の大学番号表記につきましては、お手数を煩わせたこととお詫び申し上げます。大学番号は、会員大学に振った番号です。今後とも会員登録や総会申込み等の際に記入いただく予定です。番号の変更はなく、今後、新規に加入された大学にも順次番号を振らせていただきます。事務処理をスムーズに行うために使用させていただきますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

さて、2016年度総会、養成教育フォーラム、養成教育セミナーの案内を同封いたしました。参加申込みは、7月末日が日曜日になることから、**7月29日（金）**に設定しております。早目の申し込みにご協力をお願いいたします。

なお、総会を欠席される場合は、委任状に必要事項を記入され、**押印**後、事務局に提出をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

（事務局：河田史宝 櫻田淳）

ホームページ

会員大学およびニューズレター等について更新しております。先生方のご意見をいただきながら、情報共有、発信の場にしてきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

（ホームページ：池添志乃）

日本養護教諭養成大学協議会

<http://www.j-yogo.jp/>

会計から

日頃から会の運営にご協力いただき感謝いたします。今年度も会費につきましては7月29日（金）までに納入頂きますようよろしくお願いいたします。

1年間、会計業務を担当させていただきましたが、率直に申し上げて、支出を切り詰めないと現在の予算でやりくりすることが大変厳しい状況になっています。

会員校は2015年度は126校と新たな加入校もありましたが、セミナーなどの活動の充実、文科省や関連団体との連携を強めていくための役員の旅費、ホームページの管理などにより、現会費では赤字になりかねない状況です。

総会やセミナー会場はできるだけ費用の廉価などを探したり、理事の努力で膨大な事務作業などをしていただくなどの努力をしています。今後、会費については値上げの方向で検討せざるを得ない状況です。

（会計：穴戸洲美）



編集後記

チームとしての学校や教員の資質向上やなど、様々な教育改革が示される中、養護教諭養成においても、より質の向上を図るために養護教諭関係団体連絡会が発足しました。本号では、その連絡会での取り組みも紹介いたしました。多様な教育背景をもつ養成大学間の協働が一層重要になっていることを実感します。

今後も、皆様の声を聞かせていただきながら養護教諭養成の充実化を図っていかれたらと思います。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

（池添志乃・櫻田淳・荒木田美香子）



【事務局】金沢大学人間社会研究域学校教育系
河田 史宝

TEL&FAX：076-234-4106（事務局）

Mail：yogojimu@j-yogo.jp